

諏訪地方の経済概況速報

平成26年12月

(平成26年11月末調査)

平成26年12月25日
長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫
経営相談室

<http://www.suwashinkin.co.jp>

TEL 0266(23)4567

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【 10月】	諏訪公共職業安定所管内	1.09 倍	0.18 ポイント	
手形交換高【 11月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	4,322 枚	△600 枚	
	金 額	4,764 百万円	△980 百万円	
	うち不渡り	枚 数	0 枚	0 枚
	発生状況	金 額	0 千円	0 千円
電力使用量【 11月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	49,212 MWh	△3.9 %	
	高圧電力計	89,766 MWh	△0.3 %	
	合 計	138,978 MWh	△1.6 %	
車庫証明取扱件数【 11月】(諏訪地方合計)		800 件	△19.3 %	
新設住宅着工戸数【H26年4月～10月】(諏訪管内)		640 戸	△23.4 %	

□本文は、当金庫の取引先約 130 社へのヒアリング調査による取りまとめ。

地域の概況

11 月は、前月末の日銀の追加緩和の影響で急速に円安、株高が進行した。一方で、7～9 月期の実質 GDP が 2 期連続のマイナスだったことから、安倍首相は平成 27 年 10 月からの消費税率 10% への引き上げを 1 年半先送りすることを表明し、衆議院を解散した。諏訪地方では、製造業は円安の恩恵を受けた企業はあるものの、多くの業種でコスト高を憂慮する声が増えた。商業は相次ぐ値上げに絡む価格競争があり、建設業では受注残の減少が見られた。月末には長野県北部を中心に震度 6 弱の地震があり、観光業の一部で風評被害があった。雇用情勢は、有効求人倍率が全県や全国の平均を下回ったが、依然前年同月を上回る状況が続いている。

●製造業 「自動車関連などで一部に在庫調整の影響」

堅調に推移してきた輸送用機械関連で自動車部品は、好調を維持している企業がある一方で、国内販売の低迷による在庫調整やリコール問題の影響を受けた企業が出ており、取引先の状況によって受注状況に違いが出ている。原材料やエネルギーコスト高の中で、取引先からはコストダウン要請があり、利益が出にくい構図の企業もある。トラック部品関連は比較的好調に推移している。金属部品加工も自動車関連は堅調さはあるが、リコールやエアバック問題の影響で生産調整があり、受注を減らしている企業もある。工作機械や専用機などの一般機械は、設備投資の高まりに伴い繁忙な企業もあるが、11 月は総体的に横ばい状況で推移した。エボラ出血熱の影響で、血液検査装置関連が増加するなどの特殊事例もあった。電気機械は、フル稼働の企業一方で、生産調整の影響があった企業もあり、取引先の状況によって受注に増減がある。精密機械は、受注が好調な企業があるが、短納期、小ロットが一層顕著になっている。多くの業種で、原材料の仕入れ価格高やエネルギーコスト高などによる経費負担の上昇が続いている。ただ、一部には円安の影響で、海外へ移った仕事が国内回帰して売上に寄与している企業もある。

●商業 「相次ぐ値上げで消費者心理低下」

食料品は、生鮮野菜の価格が安定したが、豚肉の高値が続き、飲食店などの仕入れ価格を圧迫した。円安の余波で食料品の値上げが相次ぎ、ひんぱんに購入する品目の値上がりが家計負担を増やし、消費者の心理を冷やしている。冷蔵庫、洗濯機などの家電製品も総体的に低調に推移した。ただ、高止まりしていたガソリンは、原油安の影響で価格が下落傾向となっている。ギフト関連は好調で、特こリンゴの売り上げが伸びた。大型店の開店した地域では、利用客の流れの変化があり、各店が商品の安値対策を行い、価格競争が激化している。自動車販売は、諏訪地方の11月の車庫証明件数が800件で、前年同月比191件、19.3%減少した。前月比でも159台、16.6%減少した。来春からの軽自動車税引き上げに対して目立った動きはない。

●観光・サービス業 「一部に長野北部地震の風評被害」

御嶽山噴火の風評被害が下火になったところに、長野県北部地震が発生した。実際の被害はなかったものの、蓼科方面などでは、週末の天候不順も重なって宿泊客の予約キャンセルがあった。スキー場開場時期の予想外の事態に困惑する施設も見られた。上諏訪温泉ではキャンセルはなく、売上が前年同期比増となった施設が多い。円安の影響で外国人観光客は前年同期より大幅に増加し、ネットに開設した上諏訪温泉専用ページの効果も出始めている。ただ、大型施設に集中する傾向もあり、価格競争が激化。県下で諏訪エリアは、宿泊客1人当たりの単価下落率が高くなっている。

●建設業 「受注残が減少傾向、民間工事は小口化」

市町村の11月の発注工事は、合計48件、397百万円となった。前年同月に比べ、件数は33件、契約金額は183百万円減少した。一方、県関係の11月の公共工事(地元業者受注分)は13件、456百万円だった。平成26年4月～11月の累計は86件4,499百万円で、前年同期の累計比で件数は32件減少し、契約金額は450百万円増加(11.1%)した。民間工事は、諏訪地方の10月の新設住宅着工戸数が111戸で、前年同月比29戸の減少(△20.7%)となった。平成26年4月～10月の累計比でも195戸の減少(△23.4%)となっている。現場代人の不足は続き。民間工事は小口が多く、土木工事は今後の公共工事の入札状況次第と見られている。

●雇用 「有効求人倍率が17ヶ月連続前年を上回る」

諏訪地域の10月の有効求人倍率は、前年同月を0.18ポイント上回り、前月を0.05ポイント下回る1.09倍となった。前年同月を17ヶ月連続で上回った。長野県平均は1.13倍でリーマン・ショック以降の最高値となり、全国平均を4ヶ月連続で上回った。全国平均は1.10倍。諏訪の新規求人(全数)は1,637人で前年同月比95人増加(6.2%)した。要因別では「業務量増大」「創業・新分野展開」が増加し、「継続する人員不足」「欠員補充」は減少した。業種別の前年同月比の新規求人数は、「建設業」で108.0%、「その他サービス業」で25.8%増加したが、「飲食店・宿泊業」で33.7%減少した。新規求職者数は1,027人で、前年同月比23人減少(△2.2%)した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は46人で、前年同月比52人減少し、前月比でも31人減少した。多くの分野で人手不足感が続いている。

業種別動向

1. 電気機械

プリント基板	中国の景気減速などで、取引先企業の在庫調整の影響があった。
プリンター	波はあるものの、受注は比較的順調に推移している。一部取引先の短期生産調整の影響を受けた企業があった。
コンタクター・リレー	やや減少傾向も見られるが、受注状況は安定して推移し、今後も安定的な見込みとなっている。

2. 輸送用機械

自動車	国内の自動車販売台数が減少し、納入先の在庫調整から売り上げが落ち込んだ企業が見られる。また、大手企業の海外生産の状況によっても受注に格差がある。トラック関連は比較的好調に推移している。
船外機	北米、欧州、新興国向けの受注に大きな変化はなく、高水準で推移している。生産能力向上に向け、設備投資する企業もある。
その他	重機関連の部品加工が増加傾向になっている企業がある。

3. 一般機械

工作機械・専用機	検査装置、産業用ロボットの受注は増減あるが、大きな変化はない。暖房用機器関連の部品は増加傾向となっている。エボラ出血熱の影響で、血液検査装置向けが増加している企業がある。
搬送用機械	堅調だった食品関連は、食品が原材料に占める輸入割合が高いため、設備に対しては慎重さが見られるようになったことなどで、大口受注がやや減少している。
金型	取引先の生産調整の影響を受け、動きが鈍くなった企業がある。
ダイカスト	取引先によって区々となっている。

4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ	全国のデジタルスチルカメラの8月の生産台数は約445万台。前月比18.7%増加したが、前年同月比では29.4%の減少となった。10月の出荷台数は国内出荷約43万台、海外出荷約412万台の合計約455万台となり、前月比14.7%増加、前年同月比では29.3%減少となっている。
レンズ	研究機関向けレーザー用レンズ、医療機器用レンズ、監視カメラ用レンズの受注は堅調に推移しているが、好調だった取引先の在庫調整の影響を受けた企業もある。

5. 繊維

ニット

冬物の生産が最盛期を迎え、高級品の受注が増加している。原材料や燃料の価格転嫁は難しく、収益性の課題が続いている。

6. 食品

寒天

道の駅関連は微増で、都心向けは減少。木曾地区は中京方面の観光客が下伊那や北陸に流れて低調な動きとなっている。

味噌

部材の価格が上昇して収益に影響しており、総体的には売上減少傾向が続いている。

7. 製材

諏訪地方の10月の木造新設住宅着工戸数は87戸で、前年同月比40戸減少(△31.5%)だった。国産材の需要が高まり値上がり傾向となっている。

8. 建設

公共工事

11月に地元業者が受注した県関係の公共工事は、諏訪建設事務所10件、林道治山工事関係3件の合計13件で、契約金額は456百万円だった。平成26年4月～11月の累計は86件、4,499百万円となり、前年同期累計を下回った。一昨年同月累計比では件数は40件減少したが、1,838百万円、69.1%の増加となっている。億単位の大口工事が減少傾向となっている。慢性的な人手不足で、工期、落札率など各方面に悪影響が出ている。来年度に向けた案件の動きは鈍い。

市町村の11月の発注工事は、建築工事4件28百万円、土木工事及び下水道工事36件217百万円、その他工事8件152百万円の合計48件397百万円となった。

民間工事

諏訪地方の10月の新設住宅着工戸数は111戸で、前年同月比で29戸の減少(△20.7%)となった。前年同月比の利用関係別では、「持家」は55戸減少の59戸、「貸家」は27戸増加の48戸、「分譲」は同数の4戸となった。平成26年4月～10月の累計は640戸で、前年同期累計比では195戸の減少(△23.4%)となっている。リフォームや事業所の改修工事は小口化している。当面の仕事量は確保している企業が多いが、見積もり依頼が減少し、冬場の工事を懸念する企業もある。

長野県内の10月の新設住宅着工戸数は1,080戸で、前年同月比0.9%増加した。前年同月比の利用関係別では、「持家」が537戸で27.8%減少、「貸家」は458戸で114%増加、「給与」は5戸で150%増加、「分譲」は80戸で27.3%減少した。

9. 商業

衣料	売り上げが増加した企業もあるが、総体的には横ばいの状況で推移した。
食料品	生鮮野菜の価格は安定した。円安の影響で値上げが相次ぎ、来年以降の乳製品やコーヒーなどの食品の値上げも懸念されている。
家電製品	電気製品小売り業界では、AV 機器関連は前年を上回っているが、白物家電は低調に推移し、増税後の回復の足取りは一進一退となっている。
自動車	県内の 11 月の新車新規登録台数は、登録車が 4 ヶ月連続で減少し、軽自動車は 3 ヶ月連続で増加した。全体では前年同月比 1,028 台減少(△10.0%)の 9,282 台で、4 ヶ月連続で減少した。
ホームセンター	気温の低下とともに、ストーブなどの暖房用品や冬のカー用品が動き始めた。

10. 観光

上諏訪温泉	11 月の宿泊人数は前年同期比 70~140%台の施設が多く、総体的に増加した。外国人観光客は前年比で大幅増加している。今後も東南アジアを中心とした予約が多い。
蓼科・白樺湖・車山等	長野県北部地震の影響で、予約のキャンセルがあった。スキー場のオープンを抑えて、集客を懸念する施設が多い。
下諏訪温泉	団体客が増加し、宿泊部門が比較的好調だった。年末年始の予約も例年同様な動きとなっている。
諏訪大社	上社・下社合わせた 11 月の参拝者数は約 5 万 5 千人で、前年同月比では約 7 百人の増加(1.4%)となった。団体の参拝客が多い。

●企業からのコメント

- ・ 低位安定が続き、今後の伸びも見込めない。円安の効果がある大手企業がうらやましい(電気機械製造業)。
- ・ 現場は忙しいが、数字を見ると「えっ」という感じ(金属表面処理業)。
- ・ 原材料は上がっているが、販売単価に転嫁して生産しているので、円安の悪影響はない(プレス業)。
- ・ 大手中心に回復傾向だが、大口受注がなく、受注残が減少し、先行き不安(工作機械製造業)。
- ・ 円安、株高はマネーゲームであり、中小零細企業は受注量が重要(輸送関連機械製造業)。
- ・ かき入れ時の風評キャンセルは予想外。沈静化するまでに多少時間がかかるのでは(観光業)。
- ・ 輸入材の仕入れ価格上昇が顕著。販売価格への転嫁は厳しく収益確保に苦慮しているが、値下げ要請が強い。住宅着工数が減少し、低価格住宅の需要が増加している(建材卸業)。